

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170201691		
法人名	株式会社 マシメディカルサービス		
事業所名	グループホーム ラポール北原台		
所在地	埼玉県 川口市 北原台 1-6-1		
自己評価作成日	平成22年1月9日	評価結果市町村受理日	平成22年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県 さいたま市 大宮区 大門町 3-88 逸見ビル2F		
訪問調査日	平成22年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①1月の餅つき大会に始まり、桜祭り、納涼祭など施設を開放し、地域の一員として事業所や利用者様を受け入れ ていただいている。
②川口市介護相談員制度の利用やボランティアの活用により、広く外部の方の視点や意見を取り入れている。
③個別ケアの実施により、施設入居後も社会とのつながりを保っている。
④「生活支援分担表」や「ポイント制度」の導入により、利用者様の自立支援に向けて努力している。

立地として交通便利で閑静な住宅街にある。利用者の安全な散歩通りには畑があり、時々収穫物をいただくこともある。地域住民と顔見知りになっていて、親交を深めている。 3ユニットと高齢者ケア付住宅の利用者は互いに行き来ができ交流が盛んであり、今後クラブ活動として音楽、コスメ(お化粧)を行い、さらに自分の好きな時間を有意義に過ごしてもらえるように計画をしている。又、利用者の目線に立ったケアが行えるように職員教育に力を入れている管理者の姿勢が見られ、職員の質の向上につながっている。
--

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃の会議、行事等と何度も地域密着型サービスについての話し合いを実践していることなので、全員理解していると思う。	春の桜まつり、夏の納涼祭等の行事には近隣の方や家族の参加もあり、コミュニケーションをとれる環境作りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設行事を地域の方々にはチラシ等により参加を呼びかけ、参加された方々と散歩などで顔を合わせると花や野菜をいただいたり、立ち話をしたりする。	地域の町内会の会員として清掃行事などに参加したり、散歩時には挨拶を交わし、直売所の野菜を購入することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事には、ご家族や地域のボランティア参加、施設周辺の方々にチラシ、ポスターなどにより、参加、見学を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に実施し、ご家族、地域住民に参加していただき、ご意見をいただき極力実践するようにしている。	2ヶ月に1回の割合で会議を開催している。行政より包括センター、介護相談員、民生委員が出席し、家族、地域住民の参加を得て地域活性化にも役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市役所等関係機関など連絡参加をいただき、ご意見等を参考にして利用者様が住みやすい施設などを考えている。	市の担当者に困難事例などの相談をしている。介護保険課の職員、介護相談員と密に連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の開放については、職員間で何度も話し合いをしているが実施できないでいる。その他の拘束防止については取り組んでいる。	一日に何時間か玄関の施錠をしない時間がある。職員は施錠を含めて身体拘束について正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員共関連法は理解しているし、職員の意識の中に虐待は日頃の利用者様との関係の中に絶対に今まではないし、今後もないと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業についてはポイントカード制の導入を、運営推進会議で御意見をいただき、実験的に実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約業務、説明などは施設長が実施することで一本化し、統一した説明、契約締結をするようにし、理解、納得を図っており、トラブルは今までなかったと思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、アンケート配布により、ご意見を伺い、反映させている。	意見ノートを設置し、家族からの意見を伺い、全体会議等で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議を定期的(1ヶ月単位)に行い、提案、意見などを聞く機会を設けている。	毎月の全体会議や個人面談時による職員の意見を、より良い職場作りに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度の人事評価を通じて、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、賞与などに反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修の告知によって、場合によっては勤務として参加できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて他施設の職員と交流を持ち、お互いの情報を交換することにより、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	年1回個別ケアを実施し、本人が行きたい場所(スポーツ観戦、墓参り、ギャンブル等)や希望をかなえるようにご家族と協力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前にはアンケート、運営推進会議等、ご意見を聞き実施している。また、面会などの際、時間の許す限り、話をうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン等や現在の利用者の状態をみてサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りなど一緒に行うようにしている。また、行事の準備、実施についても利用者様に御協力をいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や面会の際、利用様の日頃の生活や状態を説明するよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話や生活の中に、利用者の経験談や経験を活かせるよう行事、生活等に参加いただくようにしている。	馴染みの美容院やスーパーへ行ったり、以前住んでいた場所を訪ねたり、お墓参りをしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、仲のよい方々で作業や散歩を行うようにし、他の方とコミュニケーションがうまくいかない方には職員が媒介となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、特別養護老人ホームに入所した利用者面会に行き、亡くなった利用者の葬儀に参列して冥福を祈っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの身体状況や意見、希望を把握し施設での生活が快適でいられるよう努めている。	利用者の会話、表情から本人の意向をくみ取っている。3～6ヶ月に1回、利用者の「24時間生活」の記録をとり、本人の意向を把握し共有したケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの身体状況や意見、希望を把握し施設での生活が快適でいられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状況や意見、希望を把握し施設での生活が快適でいられるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や必要に応じた会議等を行い、本人やご家族と話し合い、意見やアイデアを反映し、快適に暮らせるよう介護計画を作成するよう努めている。	ケアプランと並行してポイント制度を採用し、利用者のやる気を引き出している。 (歩行、皿洗い、色ぬり等)	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と申し送りノート等を勤務前に必ず確認し、日々変化する利用者のケアに対応できるようにしている。また、必要があれば介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録と申し送りノート等を勤務前に必ず確認し、日々変化する利用者のケアに対応できるようにしている。また、必要があれば介護計画を見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の経験、能力などを把握し、一人ひとりの利用者が楽しく、施設の中での存在感が持てるよう支援するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の他に本人、ご家族の納得が得られるようにしている。	2週間毎に職員同行にてかかりつけ医に受診しているが、通院のため時折利用者の疲労が見られることがある。歯科は訪問診療を受けている。	利用者に対して、少しでも負担のかからない医療ケアを提供できるよう強化していく。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診ノートを作成、活用し、介護職、看護師が利用者一人ひとりの健康状態を共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同じグループ内に病院があり、医療機関との情報交換を行い、協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における看取りの指針」についての説明を行い、御家族、御本人の意向を確認している。	「重度化した場合における対応に係る(看取り)指針」を設け、入居時に家族に説明し、理解を得ている。又、チームケアの取り組みの準備も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスク、教育委員会の会議に定期的(1ヶ月単位)に行い、各フロアーにマニュアルを作成し配布、掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	リスク、教育委員会の会議に定期的(1ヶ月単位)に行い、各フロアーにマニュアルを作成し配布、掲示してある。	利用者、職員、全員参加による消火訓練を行っていて、消防署から実施指導も受けている。半数以上の職員が徒歩15分圏内に住んでおり、緊急時に対応できる体制が整って	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	体操、レク、生活活動(洗濯物干し、食事準備等)を強制せず、参加などを呼びかけている。また、日常生活においても極力好きなことをしていただいている。	居住者の気持ちを尊重して、一人一人個別の状態に応じて接している。 本人が答えやすい質問の仕方を考えたり、職員の意識向上を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	体操、レク、生活活動(洗濯物干し、食事準備等)を強制せず、参加などを呼びかけている。また、日常生活においても極力好きなことをしていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操、レク、生活活動(洗濯物干し、食事準備等)を強制せず、参加などを呼びかけている。また、日常生活においても極力好きなことをしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意見交換できる利用者については、自己管理していただき、意思決定の困難な利用者さんにはアドバイスをを行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、準備を利用者と一緒に行い、また、極力、一人ひとりの好みに合うよう努めている。また、不定期であるが外食に行く機会を設けている。	毎日の食事は配食センターに依頼している。 月一回程度、誕生会等行事の時に好みを聞き、利用者と共に楽しみながら食事作りをしている。日頃の盛り付けや片付けは利用者と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分チェック表を毎日記入し、一人ひとりの状態を把握し、必要であれば別メニューなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、排泄パターン習慣を活かし、パットし使用減および誘導により、排泄自立支援を行っている。	年間目標として「排泄ケアの充実」をあげ、個別の排泄パターンを理解し、事例検討を交えて自立支援に向けて努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を参考にし、食事、体操、散歩、水分補給などにより、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日については決まっています。時間などは声かけし、希望に合うよう努力している。また、入浴剤を入れ、音楽をかけて楽しんでもいただくよう努力している。	季節の湯(ゆず湯、しょうが湯)を楽しんだり、音楽を聴きながら等、気持ちよく入っていたできるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、体力など状況に応じて、休息やエアコン温度、布団等の量を巡視ごとにチェックし必要に応じて対応。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診ノート、服薬表、服薬チェック表、薬準備から服薬までの三重チェック、職員の服薬確認者の明確化等を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	他利用者に迷惑、事故につながらない範囲で音楽機器、楽器、食品など極力規則のない生活をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	極力、毎日少しの時間でも散歩に行くよう心掛けています。また、個別ケアにより本人希望と家族希望を把握し、実践している。	気の合った人達と少人数で散歩や近くのスーパー、ファミリーレストラン等へ行っている。春秋2回、家族やボランティアも参加し、バス旅行を企画する等、利用者の生きがい作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設で行っているが、自己管理の出来る方には、持つことも了解している。小額は散歩、買い物時に使え、高額は、ご家族の了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了解をいただいている方は、携帯電話を許可している。また、手紙などにも制限はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に金魚、生花。外庭にも花、野菜畑を確保し、自宅での生活感、季節感を採り入れる空間作りに努めている。	陽当たりの良い広い居間で利用者同士の会話が弾み、笑顔が見られる。季節感を採り入れた装飾を利用者と職員が共同で作成、飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事故につながらない範囲で個人の趣味(楽器、畑、花)が出来るよう持込制限をなくし、また、フロア内で会話が出来るようテーブルを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事故につながらない範囲で制限なく、好きな家具、音楽機器などを持ち込み可能にし、居心地よく暮らせるように工夫している。	今まで使い慣れた調度品等を持ち込んだり、家族の写真を飾ったり、観葉植物を育てたりして、それぞれ穏やかな居心地の良さを演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故につながらない範囲で制限なく、好きな家具、音楽機器などを持ち込み可能にし、居心地よく暮らせるように工夫している。		